

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)
／山田 芳明

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

私自身が実践者であったこともあり、これまでからも、実践的な知見を取り入れた授業を計画立案し、実践してきた。その結果、学生による授業評価でも、実践に生かせる内容であったとの高い評価を得ている。これをふまえて、本年度も、これまで同様に、大学内で行う授業であっても、学生が自分自身の実践のイメージと関連させながら思考・判断をすることができる授業展開を行っていく。

2. 点検・評価

中間報告での内容に加えて、後期の授業においても、具体的な問題場面への対応についてグループ協議を行わせるなど、より実践的な内容を多く取り入れた授業を行うなど、年間を通して授業実践の改善を図ることができた。以上のことから、本目標については充分達成できていると判断する。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育活動については、本年度も引き続き学部、大学院共に授業改善に努める。特に、具体的で実践的な演習を積極的に取り入れることにより、学生が主体的に学習に取り組めるようにすると共に、教員になるための学びのリアリティを高めるように、現場への参観、授業映像データベース等の既存のシステムを積極的に活用する。学生生活支援としては、オフィスアワーはもとより、授業以外の時間を利用し、学生からの相談に積極的に応じると共に、専修室やゼミ室等、学生の「学びの空間づくり」を継続的に行い充実を図る。

2. 点検・評価

中間報告での内容に加えて、後期授業の初等中等教科教育実践2では、授業映像データベースを活用し、模擬授業の振り返り等の活性化を図りリアリティーを高めるようにつとめた。
以上のことから、本目標については充分達成できていると判断する。

II-2. 研究

1. 目標・計画

①美術教育学の研究分野においては、22年度より3年間の計画で科研費を受けている研究について、昨年度から引き続き研究を進める。また、研究内容がまとめられた後は、国内外の学会での研究発表を行う。
②教員養成改革の研究分野においては、学生の教員としての資質・能力の向上を図るための、大学教育のあり方について研究を進める。機会があれば国内外の研究会等で発表を行う。
③その他、研究の推進のために、科研費はもとより学内の教育研究支援プロジェクト経費等、競争的資金を獲得につとめる。

2. 点検・評価

①美術教育学の研究分野に関しては、科学研究費補助金が当初7割配当であったことから、年度当初に計画していた研究段階までは充分進まなかった。しかしながら、採取年度である24年度には、成果をまとめて発表できるまでには研究は進めることができた。
②教員養成改革の研究分野に関しては、積極的に学会に参加して教師教育に関する資料を収集するなどを行うことができた。
③競争的資金に関しては、中間報告通りである。
以上のことから、本目標に関しては達成できていると判断する。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

①就職委員会等、各種委員会の業務を積極的に行う。
②その他、GP、大学評価、教員養成大学改革の推進等、全学的な事業推進についての委員に関する依頼があれば積極的に協力を行う。

2. 点検・評価

中間報告の通り、1年間を通じて各種委員会の業務を積極的に行うと共に、大学からの協力依頼に関しては積極的に受ける準備をしていた。
以上のことから、本目標に関しては達成できていると判断する。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①これまで同様に, 本年度も附属学校からの研究協力依頼は積極的に受けるとともに, 自らも附属との連携を深めるように働きかけを行う。
- ②「鳴門市文化のまちづくり審議会」, 「こどものまちづくり推進協議会」, 「鳴門市図画工作研究部会」等, 鳴門市, 鳴門市教育委員会からの委員委嘱や事業協力要請に積極的に応じる。
- ③鳴門市・大塚国際美術館・大学の三者連携事業「地域文化財教育活用プロジェクト」にもとづく「N * CAP」の取組の推進を図る。
- ④児童画展の審査員や評議員, 民間教育研究団体の運営委員等の委嘱を積極的に受ける。

2. 点検・評価

中間報告に加えて
後期には附属学校の研究発表会での指導助言, 合同研究会への参加等を行うなど, 附属との連携協力を推進した。また, 三重県教育研究集会指導助言, 大阪幼少年教育美術振興会絵画展評議委員・実行委員, 小学館「教育技術」編集委員等を行うなど, 1年間を通じて社会との連携の強化に取り組んだ。
以上のことから, 本目標に関しては十分に達成できていると判断する

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本年度も, 教職大学院を本務としながら, 教職キャリアセンター実技教育分野を兼務すると共に, 既設大学院の芸術系教育コース(美術)の授業, や学部の図画工作科教育コースの学部生を2名ゼミ生として指導するなど, 本学の教育の推進に貢献した。